

令和元年度 学校関係者評価(中間期) 愛南町立内海中学校

〔評価基準 A-目標値の80%以上達成 B-目標値の70%以上達成 C-目標値の60%以上達成 D-目標値の59%以下〕 【アンケート結果 4-そう思う 3-ややそう思う 2-あまり思わない 1-思わない】

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
1 確かな学力を身に付ける教育の推進	○主体的に学ぶ授業づくり	生徒に思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、確かな学力の向上を図ることができたか。(わかる授業の推進)	中間期	B	◇少人数のよさを生かし、個に対応した指導ができている。教師一人、一回の研究授業と見守り授業を実施、指導力の向上に努めている。生徒は、個人の意見を主張したり、周りの意見と比較したりする力がまだ身に付いていない。 ◆今後も、研究授業・見守り授業を充実させ、生徒が主体的に学ぶことができる発問の仕方や生き生きとした活動ができるよう研究を進めたい。	教職員アンケート	2.9	10%	60%	20%	0%
						生徒アンケート	3.0	8%	88%	4%	0%
						保護者アンケート	2.9	22%	48%	26%	4%
		目標値:教職員・生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	教職員アンケート							
				生徒アンケート							
				保護者アンケート							
	○基礎基本の定着	生徒は基礎基本が定着したか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇学習トライアルの成果は出ているが、長期間の定着につながっていない。 ◆授業や宿題等で、繰り返し学習できるような工夫をする。	教職員アンケート	3.0	10%	70%	10%	0%
						年度末	教職員アンケート				
	○言語活動の充実	言語活動の充実と教育内容の確実な実施に努めることができたか。 目標値:教職員の80パーセント以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇各教師とも言語活動の充実に考慮しながら、授業をしている。また、研究授業を通して、より成果が上がるよう、協議を行っている。 ◆4を回答している教師が0である。言語活動の充実に意識した授業をしているが、教師の意図した反応が生徒から得られていない部分があると考えられる。各教科の授業だけでなく、短学活や集会、学校行事などすべての教育活動を捉えて、生徒の表現力を育てられる取組を行いたい。	教職員アンケート	2.9	0%	80%	10%	0%
						年度末	教職員アンケート				
	○家庭学習の充実	家庭学習の習慣化に努めることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	C	◇生徒の半数が2か1と回答している。保護者へのアンケートでは1が22%ある。家庭での学習習慣が身に付いているとは十分に言えない状況である。ゲームやスマホ等に費やす時間が心配である。 ◆単元テスト等の前に行う学習や、普段の自主学習を充実させる。自主学習ノートの内容については、検討していきたい。宿題等の学習を終わらせてから遊ぶ習慣が定着するよう、保護者へ学年通信等で呼び掛ける。家庭学習の量の把握を今後も継続して行いたい。あわせてテスト前等にはゲームやスマホ等に掛ける時間も調査し、生徒の意識を学習に向けて高める工夫をしていきたい。	教職員アンケート	2.4	0%	40%	50%	0%
						生徒アンケート	2.5	4%	50%	42%	4%
						保護者アンケート	2.4	9%	48%	22%	22%
		目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	教職員アンケート							
				生徒アンケート							
				保護者アンケート							
	○キャリア教育の充実	夢や希望をもちそれに向けて努力できているか。 目標値:生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	C	◇生徒は、将来の夢を持っている生徒とそうでない生徒が半々で分かれている。保護者の評価も1・2の評価が半数を超えている。自分の強みや興味があることに気付く機会が少なく、自分に自信がないため将来の夢が漠然としている生徒がいる。また、教師や保護者の一方的な押し付けになっていることがあるという現状も否めない。 ◆学級活動や道徳で、よりよい生き方や勤労の尊さ、個性の伸長について生徒の心に伝わる話をする。キャリア教育=進路学習ではなく、生徒が将来「どんな生き方がしたいのか」を前向きに考えられるような授業を意識して進めていく。	生徒アンケート	2.8	42%	17%	21%	21%
						保護者アンケート	2.5	5%	40%	50%	5%
目標値:生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA		年度末	生徒アンケート								
			保護者アンケート								
○読書活動の習慣化	読書の習慣化に努めることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	C	◇生徒、保護者共に、1・2評価が半数を占めている。それを裏付けるように、1学期の図書貸出冊数の集計から、半数の生徒が1冊も本を借りていないという現状が明らかになっている。朝読書以外に、読書をする機会がない生徒が多いことが問題である。 ◆朝読書で本に対する興味を持たせ、それを家庭での読書へつなげる方法がよいのではないかとと思われる。生徒たちの余暇の楽しみがゲームやSNSなどに集中し、活字離れに拍車がかかっている現状である。読書が好きであるという生徒からの発信や図書の紹介などを通して、読書の楽しさや面白さを実感させる取組が必要である。	教職員アンケート	3.0	10%	70%	10%	0%	
					生徒アンケート	2.6	33%	21%	21%	25%	
					保護者アンケート	2.5	5%	40%	50%	5%	
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	教職員アンケート								
			生徒アンケート								

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
						保護者アンケート					
	学校運営評議員の所見				学校の対応						

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
2 豊かな心を育てる教育の推進	○心に響く道徳の授業づくり	道徳的判断力を高め、豊かな心情及び道徳的実践力の育成に努めることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇教材研究等をして計画的に授業に取り組んでいる。生徒が自ら考え、行動する力は育っていない。 ◆生徒が、授業内容や自らについて振り返ることができる時間を適切に設ける。	教職員アンケート	3.2	20%	70%	0%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	○地域の素材や人材の活用	地域の素材や人材を活用した教育活動が推進できているか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇総合的な学習の時間で積極的な活用ができています。今年度は3年生の福祉学習で、地域のお年寄りからホウ酸団子づくりを学んだのも一つのよい事例となった。 ◆道徳のTTや他教科などで地域人材を活用した授業づくりを工夫したい。	教職員アンケート	3.4	50%	40%	10%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	○あいさつの展開	生徒会を中心として、地域全体で取り組むあいさつ運動を展開することができたか。 目標値:教職員、保護者、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇集会やあいさつ運動、生徒総会等で生徒の意識が向上するような取組を行うことができた。意識の高まりからか、あいさつの大切さを口にする生徒は多い。 ◆指示を真面目に聞く生徒が多く、若干の向上も見られるが、形式的なあいさつになっている部分も感じられる。そのため、あいさつ運動への取組やその成果が家庭や地域に広がっていない。入試における面接や職場体験学習等、あいさつのもつ意味や重要性に触れる時間もあるので折に触れ、考えさせたい。	教職員アンケート	3.0	10%	80%	10%	0%
						生徒アンケート挨拶	3.2	38%	46%	17%	0%
						保護者アンケート挨拶	3.1	36%	41%	18%	5%
			年度末	教職員アンケート							
				生徒アンケート挨拶							
				保護者アンケート挨拶							
	○インクルーシブ教育の推進	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内推進体制の強化、充実を図ることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇生徒の情報の共有がなされ、提示した事例をもとに、教師一人一人が特別支援教育を意識した授業実践を行った。 ◆つまづきのある生徒への支援の在り方についての職員アンケートをもとに、教育センターの専門家にアドバイスを受ける機会を持たせた。今後もその共通理解をもとにして授業実践に生かしていきたい。	教職員アンケート	3.2	20%	80%	0%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	○人権を尊重する心の育成 ・いじめ防止	「学校いじめ防止対策基本方針」の周知と具現化に努め、いじめは許さないという強い気持ちを育てることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇毎月の生徒への学校生活に関するアンケートや全教職員での教育相談が、個人や集団の把握・理解につながっている。生徒理解が進んでいると考えられる。 ◆今後も教育活動全体を通していじめを許さないことを指導していく。	教職員アンケート	3.3	30%	70%	0%	0%
			年度末			教職員アンケート					
・人権を尊重する心の育成	全教育活動の中で人権尊重の精神を養い、「差別しない」「差別に負けない」「差別を許さない」生徒を育成することに努めることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇4を答えた教師が0%である。人権強化月間だけではなく、年間を通して人権教育に取り組む必要がある。 ◆道徳等でも人権について扱っていききたい。2学期に行われる校区別人権懇談会に向けて、全校体制で計画的に取り組みたい。また、教職員の人権についての研修も行いたい。	教職員アンケート	2.9	0%	90%	10%	0%	
		年度末			教職員アンケート						
・人権・同和教育の視点に立った学級経営	相手の立場を理解し、互いを思いやる暖かい人間関係を構築することができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇普段の学校生活の中の何気ない発言に対して、生徒に考えさせる取り組みをしており、A評価となった。しかし、生徒の13%、保護者の4%が2と評価しており、さらに人間関係づくりの強化の必要性を感じる。生徒・保護者と教職員とで、意識のずれが見られる。 ◆生徒が自分自身の言動を振り返る活動を継続させたい。2学期には運動会や文化祭などの学校行事があり、学年を超えて活動する機会も多くなる。その活動の中で互いのよさを認め合える人間関係づくりや、思いやる心を育ませたい。	教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.2	33%	54%	13%	0%	
					保護者アンケート	3.4	43%	52%	4%	0%	
		年度末	教職員アンケート								
			生徒アンケート								
			保護者アンケート								
学校運営評議員の所見				学校の対応							

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
3 たくましい心身を育てる教育の推進	○部活動の活性化	挑む心を育むたくましさ(意力・体力)の強化に努めることができたか。 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇部活動においては、「勝つことで意欲が高まる」という側面はあると思う。生徒には体力を高める取組を継続(そのチャンスを見つけた)させ、自信を持たせて部活動に取り組みさせたい。 ◆生徒が、自分に合った目標を設定し実践していく。半年後、一年後の自分を想像して、主体的に行動できる生徒を育てることが大切(指導者の資質)。	教職員アンケート	2.8	0%	80%	20%	0%
			年度末			保護者アンケート	3.3	50%	36%	9%	5%
	○生徒指導の徹底 ・いじめ・不登校の根絶	一人一人の理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図ることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇学校生活アンケート、教育相談の実施、継続等で、いじめや生徒の悩み、問題行動等の早期発見、早期対応を目指してきたことがある一定の評価につながった。 ◆今後も継続していくこと、教師それぞれが更に生徒理解に努めることが重要である。	教職員アンケート	3.6	60%	40%	0%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	・学校生活の充実	学校生活を楽しく送ることができているか。 目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇おおむね楽しく学校生活を送ることができている。欠席がほとんどないことから、それが伺える。しかしながら、不安を抱えている生徒が存在しているということを忘れてはならない。生徒の内面の不安を取り除き、安心して学校生活が送れるように気を配ることが大切である。 ◆毎月の教育相談や学校生活に関するアンケートを継続、充実させて生徒が本音を出せる環境を整える。今後も一人一人を大切に教育活動を継続させる。	生徒アンケート	3.1	33%	50%	8%	8%
			年度末			保護者アンケート	3.4	48%	48%	4%	0%
						生徒アンケート					
						保護者アンケート					
	○命を守る教育の徹底	「自分の命は自分で守る」という意識を高め、危機意識や安全確保のために具体的実践力を育てることができたか。 目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇昨年度と同様で教員よりも生徒の評価は高い現状である。生徒自身は実践力が高いと感じているが、普段の学校生活を見てみるとそうとは思えない場面が見られる。 ◆避難訓練や防災教育とも関連付けながら指導を進めていくと共に長期休業前や学校生活での指導場面を利用し、具体的な例を挙げながら指導を継続していく。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%
			年度末			生徒アンケート	3.5	58%	38%	4%	0%
						教職員アンケート					
						生徒アンケート					
	○健康教育の推進	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇継続した指導を行っているが、変化はあまり見られない。早寝・早起き・朝ごはんの大切さは分かっているものの、行動の変容まではつながっていないことが考えられる。生活習慣については、家庭の協力が必要であると考え。 ◆昨年度よりおにぎり弁当の日を実施している。食育指導と関連付けながら、朝ごはんの大切さを指導していきたい。睡眠時間の確保については、スマホ・ゲーム等の使用状況とも関連があるので生徒指導と協力しながら進めていく必要がある。保護者との連携については、学校からの啓発活動で終わってしまいがちであるが、懇談会や保護者の来校時を利用しながら根気強く発信していく必要がある。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%
						生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	17%	54%	29%	0%
						生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.3	33%	58%	8%	0%
						保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.7	30%	22%	35%	13%
		保護者アンケート歯磨き、手洗い	2.8	22%		43%	26%	9%			
		家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	教職員アンケート							
生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯											
生徒アンケート歯磨き、手洗い											
保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯											
○防災・減災教育の推進	東日本大震災から学ぶ、生きる防災・減災教育の推進を図ることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇避難訓練に取り組む生徒の意識は高い。家庭科や理科等の教科指導の中や学活でもしっかり指導することができた。防災・減災教育に関する掲示等も工夫できた。 ◆避難訓練の意味を今後もしっかり生徒に確認させたい。避難訓練の回数についてはもう少し増やす方向で計画したい。その際に、予告なしの避難訓練の実施や、登校中、部活動中などの様々なケースを想定した避難訓練を今後も積極的に取り入れたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.7	75%	21%	4%	0%	
					保護者アンケート	3.1	27%	55%	18%	0%	
	年度末	教職員アンケート									
		生徒アンケート									
		保護者アンケート									
学校運営評議員の所見				学校の対応							

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
4 特色ある学校づくり	○環境教育の推進 「海学習」の充実・深化	「海学習」の充実・深化を図りながら、家庭・地域と連携した環境教育を推進することができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇海学習は、学年の系統性を図ること、3年生の活動の効果や効率化等を考えて、昨年度の計画から一部改めた。講師との事前の打ち合わせを密にしたり、生徒に活動しやすい場となるように工夫をしてきた。天候不良等で、1学期の予定を消化し切れていないことが残念である。 ◆生徒にとって「海学習」を「環境教育」につなげていくためには、現在の活動にプラスして、学校としても一考の必要があるかも知れない(「海学習」と「環境教育」が生徒の中で更にリンクさせていく必要がある)。	教職員アンケート	3.0	20%	60%	20%	0%
						生徒アンケート	3.5	63%	29%	8%	0%
						保護者アンケート	3.5	55%	45%	0%	0%
			年度末	教職員アンケート							
				生徒アンケート							
				保護者アンケート							
	○ボランティア活動の推進	地域の一人としてのボランティア活動の推進を図ることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇委員会活動の一環として昼休みを利用し、ボランティア活動を行っており、生徒の参加率も高い。活動中もよい表情で体を動かしている場面が見られた。 ◆活動が形式的になっている部分を感じられ、ボランティア活動を通して学んだことが他に生かされていない面もある。例えば学校行事における準備や片付けでの生徒の動きとしては、教師に任せきりになる面が強い。目配りや気配りをして、進んで他のために体を動かせるよう、少しでも成長させたい。	教職員アンケート	2.9	10%	70%	20%	0%
						生徒アンケート	3.2	25%	67%	8%	0%
						保護者アンケート	3.2	38%	43%	19%	0%
			年度末	教職員アンケート							
生徒アンケート											
保護者アンケート											
学校運営評議員の所見					学校の対応						
5 教職員の資質の向上	○校内研修の充実	教育活動や校内研修を充実させ、教育専門職としての資質と指導力向上に努めることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇平均値3.1で、A評価にあと一步である。おむね教育専門職として指導力向上に向けて努力できた。 ◆授業改善を柱に今後も研究授業の話し合いを充実させ、生徒にとって分かりやすい教育活動を推進する。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	○教師としての人間性と専門性の向上	各種研修に参加し専門職としての資質と力量を高めるために自己研鑽することができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇平均値3.4なので、専門職としての力量を高めるためにそれぞれの先生方が自己研鑽できた。 ◆積極的に研修会に参加できたという意見があったが、情報を他の職員に広める手立てに工夫が必要である。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	○教職員の信用保持	服務規律の遵守し、信用保持に努めることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇県内や全国で起きた事例を朝礼で共有し、服務規律遵守を意識できたから8割の職員が「そう思う」の評価となっている。 ◆職員室のコミュニケーションを高め、お互いを理解し合う努力と組織力を向上できる集団としていきたい。	教職員アンケート	3.8	80%	20%	0%	0%
			年度末			教職員アンケート					
	学校運営評議員の所見					学校の対応					
	6 家庭・地域との連携	開かれた特色ある学校づくり ○家庭や地域との連携の強化	学校の取組みに対する情報発信と情報受信に努めることができたか。 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇各種便りやホームページ、まちcomiメールで積極的に発信し、学校の取組や生徒の様子を逐次知らせることができた。 ◆引き続き、内容の充実を図り、保護者や地域に情報発信を続けていきたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%
保護者アンケート							3.4	48%	43%	9%	0%
年度末				教職員アンケート							
				保護者アンケート							
学校運営評議員の所見					学校の対応						
自由意見	学校運営評議員の所見					学校の対応					